

病院実習の体験と医療保育士のイメージ

原 孝成・三村保子
(西南女学院短期大学)

厚生労働省が、診療報酬の平成 14 年 4 月改定において、小児入院医療評価の充実の 1 つとして、病棟に常勤の保育士とプレイルームを設置した場合の加算を行うこととした。このことは、患児の成長発達に対する配慮や QOL の向上の観点から、まだまだ少数ではあるが現在小児病棟で働く保育士にとっても画期的な出来事であった。医療場面で働く保育士の専門性の教育や養成は、これから保育士養成校の課題になると考えられる。そこで本研究では、保育士養成校に在籍する学生が医療保育士という職種をどのようなものとイメージしているかを、それと関連の深い保育士、看護師のイメージと比較していくことを目的とする。

本研究で対象となった短期大学は、保育士養成校で通常行われている保育所及び児童福祉施設併せて 30 日間の実習と共に、短期間ではあるが小児保健実習の一環として 3 日間の小児病棟での実習が行われている。この病院での実習は厳密には医療保育士としての実習ではないが、病院という施設で実際に看護師のもとで患児に接する体験が出来るものである。本研究では、同じ保育科の所属する学生で、保育所における保育実習を 10 日間体験した後の学生(以下病院実習無し群)と保育所および児童福祉施設における 30 日間の保育実習体験と小児病棟における 3 日間の病院実習体験のある学生(以下病院実習有り群)のもつ保育士・医療保育士・看護師のイメージの違いを検討する。

方 法

調査対象：短期大学の保育科に所属する学生(全て女性)。

病院実習有り群：病院実習が終了した直後の 2003 年 2 月の 2 年生 166 名(平均年齢 20.00 歳)。このうち保育実習 I、施設実習 I、保育実習 II もしくは施設実習 II のどちらか一方、及び病院実習の 4 つの保育士に関わる実習を体験し、回答に不備のなかった 163 名を分析対象とした。

病院実習無し群：保育所実習が終わって約 1 ヶ月後の 2003 年 4 月の時点の 2 年生 176 名(平均年齢 19.10 歳)。このうち保育実習 I を体験し、回答に不備のなかった 167 名を分析対象とした。

調査内容：保育士・医療保育士・看護師のイメージの測定；保育士・医療保育士・看護師のイメージそれぞれを 36 の形容詞で表す単独形容詞 SD 法の質問紙を実施した。評定は、「非常にそう思う」5 点ー「全くそう思わない」1 点の 5 件法で行った。

結 果

医療保育士のイメージの構造 医療保育士のイメージ構造を明らかにするために評定得点を元に、最尤因子法による因子分析を行った。その結果、3 つの因子を抽出した。斜交回転後の因子分析の結果を表 1 に示す。第 1 因子は、「あたたかい」「思いやりのある」という項目を含んでいたため「養護的関わりの因子」と命名した。第 2 因子は、「たくましい」「積極的な」という項目を含んでいたため「精神的強さの因子」と命名した。第 3 因子は、「ゆっくりした」「落ち着いた」という項目を含んでいたため「ひかえめさの因子」と命名した。

病院実習と保育士・医療保育士・看護師のイメージの関連 「養護的関わりの因子」に含まれる 11 項目、「精神的強さの因子」に含まれる 9 項目、「ひかえめさの因子」に含まれる 5 項目の平均算出し因子得点とし、病院実習有り・無し両群の保育士・医療保育士・看護師それぞれの 3 因子の因子得点を図 1 に示す。イメージ構造と実習体験有無の関連を検討するために、2(実習体験：病院実習有り・無し)×3(役割：保育士・医療保育士・看護師)×3(因子：「養護的関わりの因子」・「精神的強さの因子」・「ひかえめさの因子」)の 3 要因分散分析を行った。その結果、役割($F(2,628)=18.49, p<.001$)と因子($F(2,628)=562.91, p<.001$)の主効果及び実習体験×役割($F(2,628)=10.06, p<.001$)、実習体験×因子($F(2,628)=8.42, p<.001$)、役割×因子($F(4,1256)=136.61, p<.001$)の交互作用効果が有意であった。LSD 法による多重比較(有意水準は全て $ps<.001$)を行った結果をまとめると、まず養護的な関わりの因子では、病院実習体験が有る・無しに関わらず看護師よりも医療保育士、医療保育士よりも保育士がそのイメージが強いことが示された。また、医療保育士と看護師では病院実習無し群のほうが病院実習有り群よりも養護的関わりのイメージが強いことが示された。次に、精神的強さの因子では、病院実習無し群では保育士よりも、医療保育士と看護師でそのイメージが強いのにに対して、病院実習有り群では 3 つの役割間でイメージの違いはみられなかった。また、医療保育士についてみると、病院実習無し群のほうが病院実習有り群よりも精神的強さのイメージが強いことが示された。最後にひかえめさの因子に関してみると、両群とも保育士よりも看護師、看護師よりも医療保育士がそのイメージが強いことが示された。また保育士に関しては病院実習有り群のほうが無し

群よりもひかえめなイメージが強くなっていることが示された。

考 察

医療保育士のイメージの構造 医療保育士のイメージ構造としては、因子分析の結果から「養護的関わりの因子」「精神的強さの因子」「ひかえめさ因子」という3つの因子から成り立っていることが示された。

医療保育士と保育士・看護師のイメージの差異 3つの役割のイメージの違いとしては、保育士が「養護的関わり」のイメージがもっとも強く、ついで「精神的強さ」「ひかえめさ」の順に強いのに対して、医療保育士は「精神的強さ」のイメージがもっとも強く、ついで「養護的関わり」「ひかえめさ」の順に強くなっていた。この結果は、看護師の結果と同様であり、学生が同じ3つの視点から保育士、医療保育士を捉えているもののそのイメージは保育士よりも看護師に近いと考えられる。また、医療保育士の特徴としては、「養護的関わり」イメージではこの中で最もそのイメージが強い保育士と最も弱い看護師の中間に位置していることが示され。「ひかえめさ」のイメージは、3つの役割の中で最も強いことが示されている。

病院実習と医療保育士のイメージの関連 病院実習有り・無し群の医療保育士のイメージの違いをみると、実習有り群の方が病院実習無し群よりも「養護的関わり」のイメージが低いことが示されていた。この点に関しては看護師に対しても同様の結果であった。本研究の対象となった学生の病院実習が3日間の短期の実習であること、実習そのものの目的が小児保健実習の一環であり、医療場面で働く保育士としての計画された実習でなかった、そのため、実際に病院実習に行った学生は、看護師は自分たちが考えているよりも「養護的な関わり」を持つことができないという現実を理解し、それに伴って医療保育士に対する「養護的な関わり」のイメージも低くなってしまっているのではないかと考えられる。

表1 医療保育士のイメージの因子分析の結果

項 目	因子付加量	共通性
F1 養護的関わりの因子		
26 あたたかい	0.8191	0.7385
27 思いやりのある	0.7815	0.6939
14 感じのよい	0.7181	0.6736
6 親しみやすい	0.6521	0.6147
32 母親的な	0.6326	0.6875
33 やわらかい	0.6253	0.6003
12 女性的な	0.5912	0.5688
11 親切的な	0.5711	0.5501
1 心の広い	0.5661	0.5167
18 すなおな	0.5246	0.6088
2 明るい	0.5227	0.5067
F2 精神的強さの因子		
23 たくましい	0.5699	0.5526
13 積極的な	0.5555	0.5331
7 意欲的な	0.5483	0.5803
9 自信のある	0.5437	0.4372
8 我慢強い	0.5309	0.5735
24 意志が強い	0.5287	0.5176
34 しっかりした	0.5285	0.5083
4 責任感の強い	0.4978	0.4293
36 情熱的な	0.4670	0.5018
F3 ひかえめさの因子		
31 ゆったりした	0.6598	0.6605
21 落ち着いた	0.5829	0.5602
15 ひかえめな	0.5270	0.4469
30 安定した	0.5017	0.5638
25 静かな	0.4664	0.4252
累積寄与率	37.72	

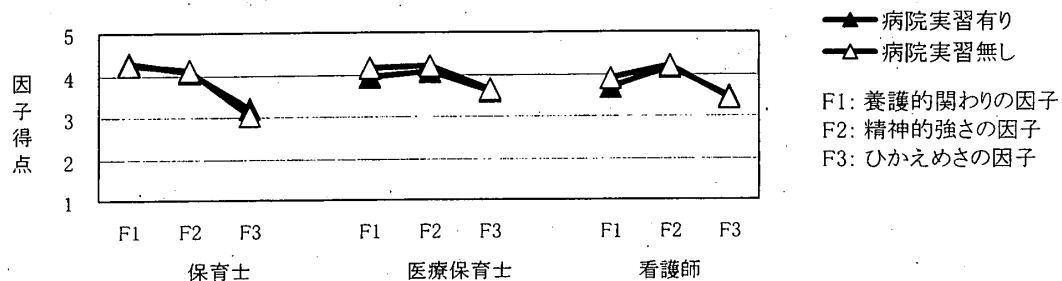


図1 病院実習有り・無し群の保育士・医療保育士・看護師それぞれの因子得点